資料6

交流人口の拡大に向けた取り組み

-検討委員会の設置と意見集約-

街並みづくり100年運動

山形県金山町

旧羽州街道「上台峠」から中心部を望む

総合政策課

■　金山町の概要

- 明治22年統一「金山村」誕生　以降合併なし　大正14年町制施行
- 人口 約5, 300人 （人口ピークは昭和25年　約10,300人）
- 面積約162平方km　約8割が山林　約1割が農地
- 農林業を主要産業とする典型的な中山間地の農山村
（酒米やニラなどの産地化、金山杉）
- 旧羽州街道沿いの町（中心部は宿場町の面影を残す）
- 昭和57年全国に先駆けて「情報公開条例」施行
- 昭和59年街並みづくり100年運動
- 昭和59年HOPE計画策定
- 昭和61年街並み景観条例制定
- 交流人口（観光者数）約16.6万人

■　金山町の概要

- 国道13号により、南は新庄市、北は秋田県湯沢市と結ばれ広域的なネットワークを形成
- 高規格幹線道路である東北中央自動車道が全線事業化（新庄金山道路⇒R7開通予定）

- 1878年イザベラ・バード女史(英国人女性旅行家）が訪れ、「日本奥地紀行」（原題「日本の未踏の地」）に、金山町について「ロマンチックな場所」とその印象を記す。

東北中央道開通によるストック効果①

・安全で安心できる冬期交通環境の確保

・定時性・速達性確保による地域経済活動の活性化

・救急救命格差の是正

・農作物出荷の定期性確保と鮮度保持⇒市場評価の向上

東北中央道開通によるストック効果②

・四季折々の豊かな自然と温泉、
街並み景観など、魅力的な
観光資源が多数存在

・定時性と速達性が確保されることで
新たな観光周遊ルートの創出を実現し、
地域活性化に寄与

▼街並みづくり100年運動
木造家屋の街並み(金山町)

▼日本三大急流
最上川舟下り（戸沢村）

東北中央道開通によるストック効果③

・高規格幹線道路の整備が進むことで、企業進出などの民間投資が実現
・企業進出は、地域経済を活性化させ、若者定住による人口減少の抑制効果を発揮

▲誘致企業（金山町）

開通を待ちこがれつつ、
一方で、町内を素通りされてしまうことが心配

⇒　そのため、多くの方が来町され、
交流人口が拡大し、地域経済の活性化に
結びつくような誘導策について多様な
ご意見をいただくことに

「金山町高規格道路供用開始に向けた交流人口拡大方策検討委員会」を設置

設置要綱（抜粋）

（設置）

第１条　金山町高規格道路供用開始に向けた交流人口拡大方策に対して意見及び助言等を得るため、金山町高規格道路供用開始に向けた交流人口拡大方策検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、次に掲げる方策について意見、助言を行う。

⑴高規格幹線道路の供用開始を見据えた町内への誘導策に関すること

⑵交流人口の拡大に向けた広域連携等のあり方に関すること

⑶上記の実現に欠かせない地域資源の活用、情報発信のあり方に関すること

（組織）

第３条　委員会の委員は、次に掲げるもののうちから町長が委嘱する。

⑴学識経験者

⑵公募による者（女性、高齢者、若者）

⑶かねやま未来会議専門検討部会委員の一部（地域、経済団体、金融機関）

⑷その他町長が特に必要と認めた者（関係機関、町議会、町等）

検討委員会の開催

第1回検討委員会　R2.10.1（13：30～15：00）
　　金山町役場　町民ホールにて開催

第2回検討委員会　R2.12.14（13：30～15：00）
　※管内市町村で新型コロナ感染者発生のため
　　書面会議へ変更

現時点における意見の集約

1.「体験型グリーンツーリズム」及び
　「経済的観点（特産品・雇用と事業者など）」

2.「道の駅」及び「広域連携」

3.「地域資源（街並み・林業・文化・教育など）」

1.「体験型グリーンツーリズム」及び「経済的観点（特産品・雇用と事業者など）」

・観光（ツーリズム）は消費から参加・体験へ
・参加・体験ツーリズムは、地域の魅力を活用したアクティビティ・コンテンツへ
・金山は「美しい山村」　・山から里まで全体を経験
・稲作体験や落花生の収穫体験といったアグリ体験
・グランピングやオートキャンプ
・自然体験型のツーリズムを展開することで大手のアウトドア関連会社にもアピール。
「山の駅」として全国にも発信
・樹齢100年の金山杉伐採体感ツアー
・アクティビティの創出。伐採した傾斜のある山を利用してモトクロスやバギー、
冬季はスノーモービル
・森の美術館。町なかにギャラリーを設け連動。自然・芸術・文化が交差する町
・コロナ禍の中で地方でのワーケーション、テレワーク移住
・農家民宿や林業民宿などの体験型観光。専門職大学と連携し学びの場を提供
・学生による地域の農作物を使った商品開発、特産品づくり
・ボランティアホリデーによる人口交流（ゴミ拾い競技や除雪など）

2.「道の駅」及び「広域連携」

・既存の商店・飲食店での買い物や食事、歴史的街並みの美しさとの接触
・「連続的・一体的な地域」として地域を「巡る」ことに新しい発見や楽しみ
・神室山麓（番楽、史跡、林業）、羽州街道（イザベラバードの足跡、宿場町の景観）をテーマとする「文化圏としての地域連携」
・広域連携は、その地域の生活者の日常の支えとなるものであるべき
・連携する地域を訪れ、必要な物品の購入や文化娯楽の体験を通して人の流動と交流が醸成・促進
・既存の道の駅との連携。他の道の駅との間で相互に補完しあう関係を構築し、交流人口を拡大
・道の駅は「目的地」にもなる。災害発生時のトラック、バス等の避難場所（24時間利用トイレ、エネルギースタンド、道路情報、観光案内の整備）
・交通量や利用客予想をしっかりとした上でコストパフォーマンス、収益予想を十分に行う必要がある
・道の駅は最上地域が一体となって取り組むべきこと
・地域住民全体の結集なくして長くは続かない。その構築ができなければ考えない方がよい

3.「地域資源（街並み・林業・文化・教育など）」

・林業、金山住宅を造る大工技術、景観施策の3者の繋がりは「地域“産業”資源」であり
「地域“文化”資源」
・金山の地域資源を題材とする「地域学＝地域を育みそこに生きるための学び」は、
グローバルな地域教育の教材
・旧家、蔵をその歴史を感じさせたまま宿泊施設、店舗に魅力的にリノベーション。
金山のファンづくり
・中高年の方を対象として、“町歩き“町散策”をより楽しめる魅力あるものに
・街並の風景のPR発信を拡充
・木質バイオマス発電事業や、そこでの廃熱利用によるハウス農業・施設園芸を行う。
循環型の地域資源活用
・空き家や蔵などの活用。今の時代、情報は発信し拡散していくもの
・ライトアップ事業で景観賞を受賞。定期的に夜のイベントを開催。
シェーネスハイム金山への宿泊も期待
・高速道路から降りてもらうには、街中駐車場の整備が急務
・馬の放牧（ホースセラピー）・馬車・水田の代掻き体験

今後の予定

年度内に第3回検討委員会を開催し意見集約の上報告。
さらに深堀りするため、次年度上期まで延長することも想定。

◆これからの「主役たち」のため、何を優先すべきか、
その方向性をしっかり見いだしていきたいと考えています。
ご清聴ありがとうございました。